

## Natural for Windows

コンフィグレーションユーティリティ

バージョン 6.3.3

October 2008

This document applies to Natural バージョン 6.3.3 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © Software AG 1992-2008. All rights reserved.

The name Software AG™, webMethods™, Adabas™, Natural™, ApplinX™, EntireX™ and/or all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA, Inc. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

## 目次







1	1
2	3
	4
	4
	5
3	7
	8
	9
	9
	10
	10
	11
4	13
	14
	15
	16
	17
	18
	18
	19
	20
	21
	21
	22
5	23
	24
	34
6	39
	41
	43
	60
	62
	63
7	67
索引	69



# 1 コンフィグレーションユーティリティ

このドキュメントではコンフィグレーションユーティリティについて説明します。このユーティリティは、グローバルおよびローカルコンフィグレーションファイルの修正や、パラメータファイルの作成または修正を行う場合に使用します。

このドキュメントは次の項目で構成されています。

 <a href="#">コンフィグレーションユーティリティの開始と終了</a>	コンフィグレーションユーティリティを開始/終了する方法。
 <a href="#">コンフィグレーションユーティリティウィンドウの要素</a>	メニューバー、ツールバー、パラメータ、コンテキストメニュー、およびステータスバーに関する全般的な情報。
 <a href="#">コンフィグレーションユーティリティでの作業</a>	パラメータに移動して変更する方法、パラメータを検索する方法、変更を保存する方法。パラメータファイルの作成、コピー、貼り付け、名前変更、削除、エクスポート、インポートを行う方法、およびヘルプの使用方法。
 <a href="#">コンフィグレーションファイルのパラメータの概要</a>	グローバルおよびローカルコンフィグレーションファイルで設定できるパラメータについての情報。
 <a href="#">プロファイルパラメータの概要</a>	パラメータファイルで設定できるプロファイルパラメータについての情報。
 <a href="#">代替パラメータファイルによる Natural の呼び出し</a>	独自にカスタマイズしたパラメータファイルで Natural スタジオと Natural ランタイムを呼び出す方法。

『オペレーション』ドキュメントの「[プロファイルパラメータの使用方法](#)」および『[パラメータリファレンス](#)』ドキュメントも参照してください。

このユーティリティは、Windows 環境でパラメータを設定する場合に使用します。Natural for Windows と Natural の Single Point of Development (SpoD) を併用してリモート開発を行っている場合、対応するプラットフォーム向けの『オペレーション』ドキュメントに記載されたパラメータの使用法に関するセクションも参照してください。

 **Notes:**

1. パラメータファイルでは、上位互換は維持されていますが下位互換は維持されていません。上位バージョンのコンフィグレーションユーティリティでパラメータファイルを作成した場合、下位バージョンでそのファイルを読み取ろうとするとエラーメッセージが表示されます。ファイルを正常に読み取るには、そのファイルを上位バージョンで**エクスポート**し、下位バージョンのコンフィグレーションユーティリティで**インポート**します。
2. パラメータファイルには、異なるプラットフォーム間での互換がありません。したがって、特定のプラットフォームから別のプラットフォームに（例えば、WindowsからUNIXまたはOpenVMSに）ファイルをコピーすることはできません。異なるプラットフォームで同じパラメータファイルを使用するには、ファイルを**エクスポート**し、ターゲットプラットフォームでそのファイルを**インポート**します。

## 2 コンフィグレーションユーティリティの開始と終了

---

- コンフィグレーションユーティリティの開始 ..... 4
- コンフィグレーションユーティリティの終了 ..... 4
- コンフィグレーションユーティリティの開始時に機能を実行する ..... 5

このドキュメントでは、以下のトピックについて説明します。

## コンフィグレーションユーティリティの開始

---

Naturalをインストールすると、[スタート]メニューの[プログラム]フォルダに、[Natural]フォルダが自動的に表示されるようになります。このフォルダには、Naturalコンフィグレーションユーティリティやヘルプなど、Naturalの各種ショートカットが含まれています。インストール時に指定すれば、Windowsのデスクトップで複数のショートカットを使用することもできます。

### ▶手順 2.1. コンフィグレーションユーティリティを開始するには

- Windowsの[スタート]メニューから、[プログラム] > [Software AG Natural n.n] > [コンフィグレーションユーティリティ]を選択します。

Or:

Windowsのデスクトップで次のショートカットを使用します（インストール時に指定した場合のみ）。



[Naturalコンフィグレーションユーティリティ]ウィンドウが表示されます。詳細については、「[コンフィグレーションユーティリティウィンドウの要素](#)」を参照してください。

## コンフィグレーションユーティリティの終了

---

コンフィグレーションユーティリティを終了しようとして、変更内容がまだ保存されていなかった場合、変更したファイルごとにダイアログが表示され、変更を保存するかどうかを質問されます。

### ▶手順 2.2. コンフィグレーションユーティリティを終了するには

- [ファイル]メニューの[終了]を選択します。

Or:

Alt キーを押したまま F4 キーを押します。

Or:



[コントロール] メニューの [閉じる] を選択します。

Or:

タイトルバーの右側にある対応する標準ボタンを選択します。

## コンフィグレーションユーティリティの開始時に機能を実行する

コンフィグレーションユーティリティの開始時に、いくつかの機能を自動的に実行することができます。

コンフィグレーションユーティリティを開始するのに使用するショートカットのプロパティを表示します。次に、[ターゲット] テキストボックスで、*natparm.exe* に続けて次の機能を指定できます。

機能	説明
exit	コンフィグレーションユーティリティを終了します。
import= <i>parameter-file</i>	指定されたパラメータファイルをインポートします。
export= <i>parameter-file</i>	指定されたパラメータファイルをエクスポートします。
parm= <i>parameter-file</i>	ツリー内の指定されたパラメータファイルを選択します。
save	パラメータファイルを保存します。
save= <i>new-parameter-file-name</i>	パラメータファイルを別の名前で保存します。

複数の機能を順番に指定することもできます（下の例を参照）。

例

- コンフィグレーションユーティリティを呼び出し、即座に編集できるようにツリー内の指定したパラメータファイルを選択する場合。

```
natparm.exe parm=parameter-file
```

- コンフィグレーションユーティリティを呼び出し、ツリー内の指定したパラメータファイルを選択し、新規ファイルとして指定した名前でそのファイルを保存する場合。

```
natparm.exe parm=parameter-file save=new-parameter-file-name
```

- コンフィグレーションユーティリティを呼び出し、指定したパラメータファイルをエクスポートしたらコンフィグレーションユーティリティを終了する場合。

```
natparm.exe export=parameter-file exit
```

- コンフィグレーションユーティリティを呼び出し、指定したパラメータファイルをインポートし、インポートしたファイルの名前をそのまま使ってファイルを保存する場合。

```
natparm.exe import=parameter-file save
```

# 3 コンフィグレーションユーティリティウィンドウの

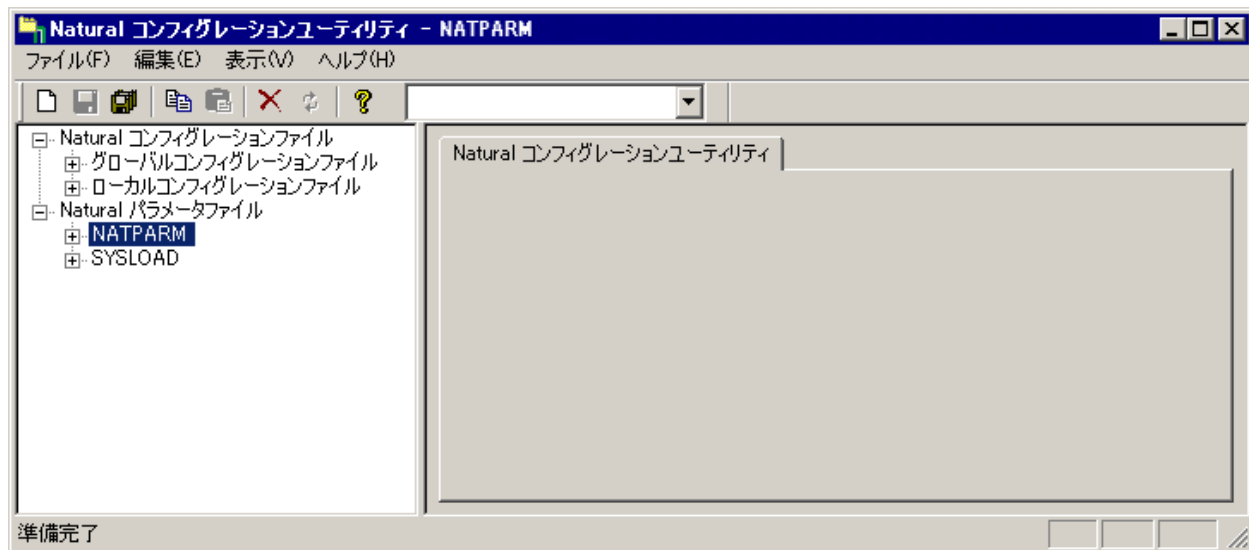
## 要素

---

■ メニューバー .....	8
■ ツールバー .....	9
■ ツリー .....	9
■ パラメータ .....	10
■ コンテキストメニュー .....	10
■ ステータスバー .....	11

## コンフィグレーションユーティリティウィンドウの要素

コンフィグレーションユーティリティを開始すると、現在アクティブなパラメータファイルの名前がタイトルバーに表示されます。また、ツリーでもそのファイルが選択されています。



このchapterでは、次のトピックについて説明します。

## メニューバー

次のメニューを使用できます。









メニュー	このメニューのコマンドで実行できる操作
ファイル	パラメータファイルを管理します（作成、削除など）。また、すべてのパラメータファイルおよびコンフィグレーションファイルに行った変更を保存します。
編集	パラメータファイルをコピーして貼り付けます。また、パラメータを検索します。
表示	ツールバーとステータスバーの表示／非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンラインドキュメントを表示して、コンフィグレーションユーティリティに関する情報を表示できます。

ツールバーとコンテキストメニューからも多くのコマンドを選択できます。

## ツールバー

重要な機能はツールバーボタンを使用して実行できます。マウスポインタをツールバーの上に移動させると、ステータスバーにそのボタンの簡単な説明が表示されます。

次のツールバーボタンを使用できます。

-  新しいパラメータファイルの作成
-  選択したパラメータファイルまたはコンフィグレーションファイルの保存
-  すべてのファイルの保存
-  選択したパラメータファイルのコピー
-  コピーしたパラメータファイルの貼り付け
-  選択したパラメータファイルの削除
-  選択したパラメータファイルまたはコンフィグレーションファイルの最後に保存したバージョンの復元
-  ヘルプの表示

ツールバーのドロップダウンリストボックスで、特定のパラメータを検索できます。「[パラメータの検索](#)」を参照してください。

### ▶手順 3.1. ツールバーの表示のオンとオフを切り替えるには

- [表示] メニューの [ツールバー] を選択します。

ツールバーがコンフィグレーションユーティリティウィンドウに表示される場合、このメニューコマンドの横にチェックマークが付きます。

## ツリー

コンフィグレーションユーティリティウィンドウの左側にあるツリーには、2種類のファイルのノードが表示されます。

- **Natural** コンフィグレーションファイル  
このノードを展開すると、グローバルおよびローカルコンフィグレーションファイルを変更できます。「[コンフィグレーションファイルのパラメータの概要](#)」を参照してください。

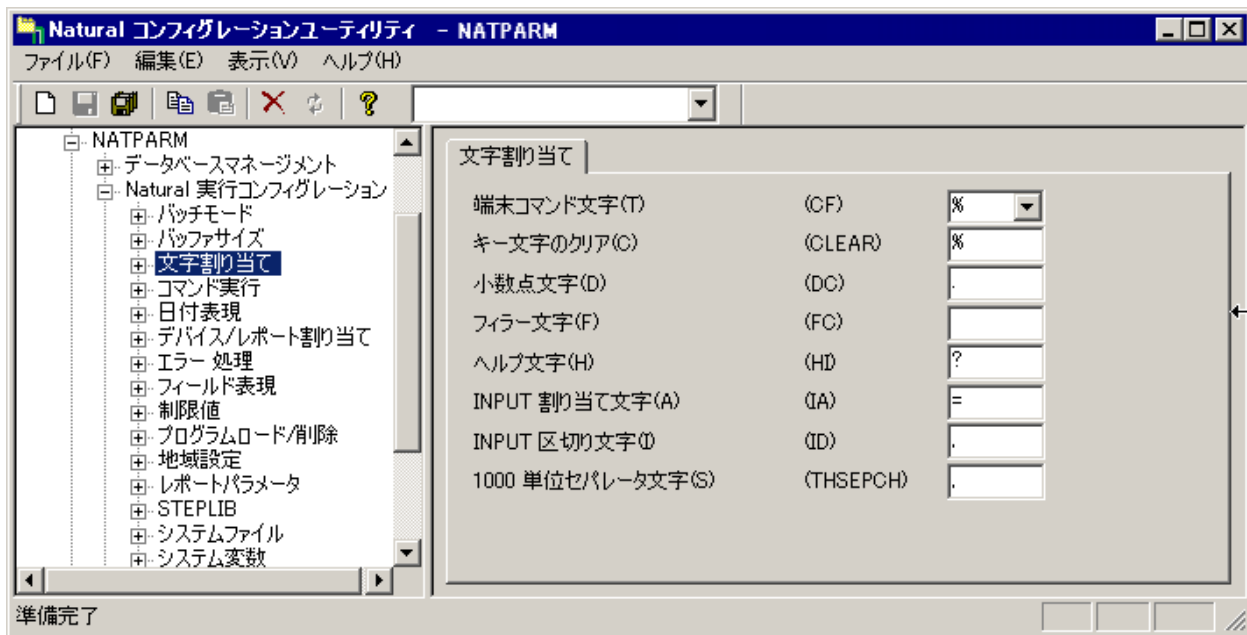
### ■ Natural パラメータファイル

このノードを展開すると、さまざまなパラメータファイルのプロファイルパラメータを変更できます。「[プロファイルパラメータの概要](#)」を参照してください。

パラメータ割り当てを変更する方法、および独自のパラメータファイルを作成する方法の詳細については、「[コンフィグレーションユーティリティでの作業](#)」を参照してください。

## パラメータ

ツリー内で特定のカテゴリのノードを選択すると、パラメータがウィンドウの右側に表示されます。パラメータファイルの場合、Natural プロファイルパラメータの名前は、ウィンドウの右側の対応するコントロールのラベルの横に、カッコで囲まれた状態で表示されます。例えば、次のように表示されます。



## コンテキストメニュー

コンテキストメニューは、そのときの状況に応じて有効なコマンドを選択できるように表示されます。コンテキストメニューの内容は、コンフィグレーションユーティリティウィンドウでそのとき選択されているノードによって異なります。

▶手順 3.2. コンテキストメニューを表示するには

- 1 コンテキストメニューを表示するノードを選択します。
- 2 右クリックします。

コンテキストメニューが表示され、目的のコマンドを選択できます。

## ステータスバー

---

ステータスバーは、コンフィグレーションユーティリティウィンドウの下部に水平方向に表示される情報行です。ここでは、メニューバー、ツールバー、コンテキストメニューのコマンドに関する簡単なヘルプが表示されます。

▶手順 3.3. ステータスバーの表示／非表示を切り替えるには

- [表示] メニューの [ステータスバー] を選択します。

ステータスバーがコンフィグレーションユーティリティウィンドウに表示される場合、このメニューコマンドの横にチェックマークが付きます。





## 4 コンフィグレーションユーティリティでの作業

---

■ 新しいパラメータファイルの作成 .....	14
■ パラメータの検索および変更 .....	15
■ パラメータの検索 .....	16
■ 変更の保存 .....	17
■ 最後に保存したバージョンの復元 .....	18
■ パラメータファイルのコピーと貼り付け .....	18
■ パラメータファイルの名前の変更 .....	19
■ パラメータファイルの削除 .....	20
■ パラメータファイルのエクスポート .....	21
■ パラメータファイルのインポート .....	21
■ ヘルプの使用 .....	22

このchapterでは、次のトピックについて説明します。

### 新しいパラメータファイルの作成

---

独自のパラメータファイルを作成し、要件に合わせてカスタマイズすることができます。その後、パラメータファイルのいずれかを使用して Natural を呼び出すことができます。詳細については、「[代替パラメータファイルによる Natural の呼び出し](#)」を参照してください。

ユーザーが作成した各パラメータファイルには当初、Naturalのデフォルト設定が含まれています。



**Tip:** Natural で提供されるデフォルトのパラメータファイル NATPARM を変更するのではなく、独自のパラメータファイルを作成することをお勧めします。

#### ▶手順 4.1. 新しいパラメータファイルを作成するには

- 1 [ファイル] メニューの [新規作成] を選択します。

Or:

または、次のツールバーボタンを選択します。



Or:

Ctrl+N キーを押します。

デフォルト名 "NEWn" を持つ新しいパラメータファイルがツリーに表示されます。新しい名前をすぐに入力できるように、デフォルト名が選択されています。テキストを入力すると、選択されている名前は自動的に削除されます。

- 2 新しいパラメータファイルの名前を入力します。
- 3 Enter キーを押します。

Or:

ツリー内の他の場所をクリックします。

新しいファイルのパラメータはデフォルト値に設定されています。必要に応じて、すべてのパラメータを設定できます。



**Note:** 既存のファイルを **コピー** する、または既存のファイルを新しい名前でも **保存** するという方法でも、新しいパラメータファイルを作成できます。

## パラメータの検索および変更

次のようなさまざまな方法でパラメータを検索できます。

- パラメータが属しているパラメータグループまたはカテゴリがわかっている場合は、ツリーを展開してパラメータを見つけることができます。それには下記の手順に従ってください。
- パラメータグループもカテゴリもわからない場合は、パラメータの検索を実行できます。「[パラメータの検索](#)」を参照してください。

### ▶手順 4.2. パラメータを検索および変更するには

- 1 グローバルまたはローカルコンフィグレーションファイルのノード、あるいは特定のパラメータファイルのノードを展開します。
- 2 パラメータファイルの場合：パラメータグループ（[\[Natural 実行コンフィグレーション\]](#)など）のノードを展開します。
- 3 変更するパラメータが含まれているカテゴリ（[\[バッファサイズ\]](#)など）を選択します。

パラメータがウィンドウの右側に表示されます。パラメータファイルの場合、Natural プロファイルパラメータの名前は、ウィンドウの右側の対応するコントロールのラベルの横に、カッコで囲まれた状態で表示されます。

Or:

カテゴリのノードを展開します。

パラメータの説明がツリーのノードの下部に表示されます。ツリーで説明を選択すると、ウィンドウの右側にこのグループのすべてのパラメータが表示されます。ツリーで選択している説明については、その説明に対応するパラメータもウィンドウの右側で選択されるので、すぐに変更を加えることができます。

- 4 パラメータに必要な値を設定します。詳細については、「[コンフィグレーションファイルのパラメータの概要](#)」または「[プロファイルパラメータの概要](#)」を参照してください。



#### Notes:

1. 次の事項がチェックボックスに適用されます。チェックボックスがオンのときは対応するパラメータが "ON" に設定され、チェックボックスがオフのときは対応するパラメータが "OFF" に設定されます。
2. 一部のパラメータでは、ブラウズボタン（3個のピリオドが表示されたボタン）を使用することができます。このボタンをクリックすると、ダイアログボックスで必要な設定を選択できます。

パラメータを変更すると、ツリー内の対応するノード名の横にアスタリスク (\*) が表示されます。

- 5 「[変更の保存](#)」の説明に従って、変更を保存します。

## パラメータの検索

---

パラメータが属しているカテゴリがわからない場合、パラメータの検索を実行することができます。検索の実行対象は必ず、現在選択されているパラメータファイル、グローバルコンフィグレーションファイル、またはローカルコンフィグレーションファイルになります。

### ▶手順 4.3. パラメータを検索するには

- 1 パラメータの検索対象となるパラメータファイルまたはコンフィグレーションファイルに属するノードを選択します。
- 2 [編集]メニューの[検索]を選択します。

Or:

Ctrl キーを押したまま F キーを押します。

ツールバーが現在表示されていない場合は、自動的にアクティブになり、パラメータを含むドロップダウンリストボックスが表示されます。



**Note:** すでにツールバーが表示されている場合は、上記のコマンドを使用せずにドロップダウンリストボックスを表示できます。

- 3 ツールバーのドロップダウンリストボックスでパラメータを選択します。



**Note:** そのときコンフィグレーションファイルが選択されている場合、ドロップダウンリストボックスからカテゴリ（例えば、グローバルコンフィグレーションファイルに属する [プリンタプロファイル]）を選択できます。

選択したパラメータを含むカテゴリが、ウィンドウの右側に表示されます。

## 変更の保存

使用可能な保存コマンドは複数存在します。パラメータを変更した場合、ツリー内の各ノード名の横にアスタリスク (\*) が表示されます。

### ▶手順 4.4. 選択したコンフィグレーションファイルまたはパラメータファイルの変更を保存するには

- 1 保存するファイルのノードを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [保存] を選択します。

Or:

または、次のツールバーボタンを選択します。



Or:

Ctrl キーを押したまま s キーを押します。

### ▶手順 4.5. パラメータファイルを別の名前で保存するには

- 1 別の名前で保存するパラメータファイルのノードを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [名前をつけて保存] を選択します。

デフォルト名 "NEWn" を持つ新しいパラメータファイルがツリーに表示されます。新しい名前をすぐに入力できるように、デフォルト名が選択されています。テキストを入力すると、選択されている名前は自動的に削除されます。

- 3 新しいパラメータファイルの名前を入力します。
- 4 Enter キーを押します。

Or:

ツリー内の他の場所をクリックします。

### ▶手順 4.6. すべてのファイルの変更を保存するには

- [ファイル] メニューの [すべて保存] を選択します。

Or:

または、次のツールバーボタンを選択します。



## 最後に保存したバージョンの復元

---

変更内容を破棄して、最後に保存したバージョンに戻すことができます。

▶**手順 4.7. 選択したコンフィグレーションファイルまたはパラメータファイルを最後に保存したバージョンに戻すには**

- 1 変更内容を破棄するファイルのノードを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [復元] を選択します。

Or:

または、次のツールバーボタンを選択します。



最後に保存したバージョンの設定が復元されます。

## パラメータファイルのコピーと貼り付け

---

既存のファイルをコピーしてツリー内に貼り付ける方法でも、新しいパラメータファイルを作成することができます。

▶**手順 4.8. 新しいパラメータファイルを作成するには**

- 1 コピーするパラメータファイルのノードを選択します。
- 2 [編集] メニューの [コピー] を選択します。

Or:

または、次のツールバーボタンを選択します。



Or:

Ctrl キーを押したまま c キーを押します。

- 3 [編集] メニューの [貼り付け] を選択します。

Or:

または、次のツールバーボタンを選択します。



Or:

Ctrl キーを押したまま v キーを押します。

デフォルト名 "NEWn" を持つ新しいパラメータファイルがツリーに表示されます。新しい名前をすぐに入力できるように、デフォルト名が選択されています。テキストを入力すると、選択されている名前は自動的に削除されます。

- 4 新しいパラメータファイルの名前を入力します。
- 5 Enter キーを押します。

Or:

ツリー内の他の場所をクリックします。

この後、必要に応じてすべてのパラメータを設定できます。

## パラメータファイルの名前の変更

ツリー内でパラメータファイルの名前を変更することができます。

Natural の呼び出しに使用するパラメータファイルの名前を変更した場合、必ず対応するショートカットの名前も変更してください。詳細については、「[代替パラメータファイルによる Natural の呼び出し](#)」を参照してください。

### ▶手順 4.9. パラメータファイルの名前を変更するには

- 1 名前を変更するパラメータファイルのノードを選択します。

- 2 [ファイル] メニューの [名前の変更] を選択します。

Or:

F2 キーを押します。

新しい名前をすぐに入力できるように、名前が選択されています。テキストを入力すると、選択されている名前は自動的に削除されます。

- 3 パラメータファイルの新しい名前を入力します。

- 4 Enter キーを押します。

Or:

ツリー内の他の場所をクリックします。

## パラメータファイルの削除

---

ツリー内でパラメータファイルを削除することができます。

Naturalの呼び出しに使用するパラメータファイルを削除した場合、必ず対応するショートカットでも適切な処置を行ってください。詳細については、「[代替パラメータファイルによるNaturalの呼び出し](#)」を参照してください。

### ▶手順 4.10. パラメータファイルを削除するには

- 1 削除するパラメータファイルのノードを選択します。

- 2 [ファイル] メニューの [削除] を選択します。

Or:

または、次のツールバーボタンを選択します。



Or:

Delete キーを押します。



## パラメータファイルのエクスポート

パラメータファイルのエクスポートすると、現在のパラメータファイルの値を含むテキストファイルが生成されます。このようなテキストファイルは、Windows、UNIX、および OpenVMS プラットフォームで使用することができます。これらの環境で使用するためには、ファイルをインポートする必要があります。

### ▶手順 4.11. パラメータファイルのエクスポートするには

- 1 エクスポートするパラメータファイルのノードを選択します。
- 2 [ファイル] メニューの [エクスポート] を選択します。

[エクスポート] ダイアログボックスが表示されます。選択したパラメータファイルの名前がエクスポートファイル名として提示されます。このファイルの拡張子は "LST" です。

- 3 (任意) 別のファイル名を指定します。別のフォルダを選択することもできます。
- 4 ファイルをエクスポートするには、[保存] ボタンを選択します。

別のフォルダを選択していない場合、ファイルは一時ファイル用に指定されている Natural フォルダに格納されます。「[インストール指定](#)」も参照してください。

## パラメータファイルのインポート

エクスポートしたパラメータファイルをインポートすることができます。インポートを行うと、エクスポート時に生成された拡張子 "LST" のテキストファイルから、バイナリのパラメータファイルが生成されます。

### ▶手順 4.12. パラメータファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] メニューの [インポート] を選択します。  
[インポート] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 インポートするファイルを選択します。このファイルの拡張子は "LST" です。
- 3 [開く] ボタンを選択します。

同じ名前のファイルが存在しない場合、インポートしたパラメータファイルがツリー内に表示されます。

同じ名前のファイルがすでに存在する場合は、既存のファイルを上書きするかどうかを確認されます。既存のファイルを上書きしないと選択すると、新しいファイルは "NEWn" という名前で作成されます。

## ヘルプの使用

---

[ヘルプ] メニューから、いくつかの方法でコンフィグレーションユーティリティのヘルプを表示できます。

### ▶手順 4.13. 『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントを表示するには

- [ヘルプ] メニューの [ヘルプ索引] を選択します。

Or:

次のツールバーボタンを選択します。



### ▶手順 4.14. コンテキスト依存ヘルプを表示するには

- 1 コンテキスト依存ヘルプを表示する目的のノードまたはパラメータを選択します。
- 2 [ヘルプ] メニューの [コンテキストヘルプ] を選択します。

Or:

F1 キーを押します。

### ▶手順 4.15. コンフィグレーションユーティリティの情報を表示するには

- [ヘルプ] メニューの [Natural コンフィグレーションユーティリティについて] を選択します。

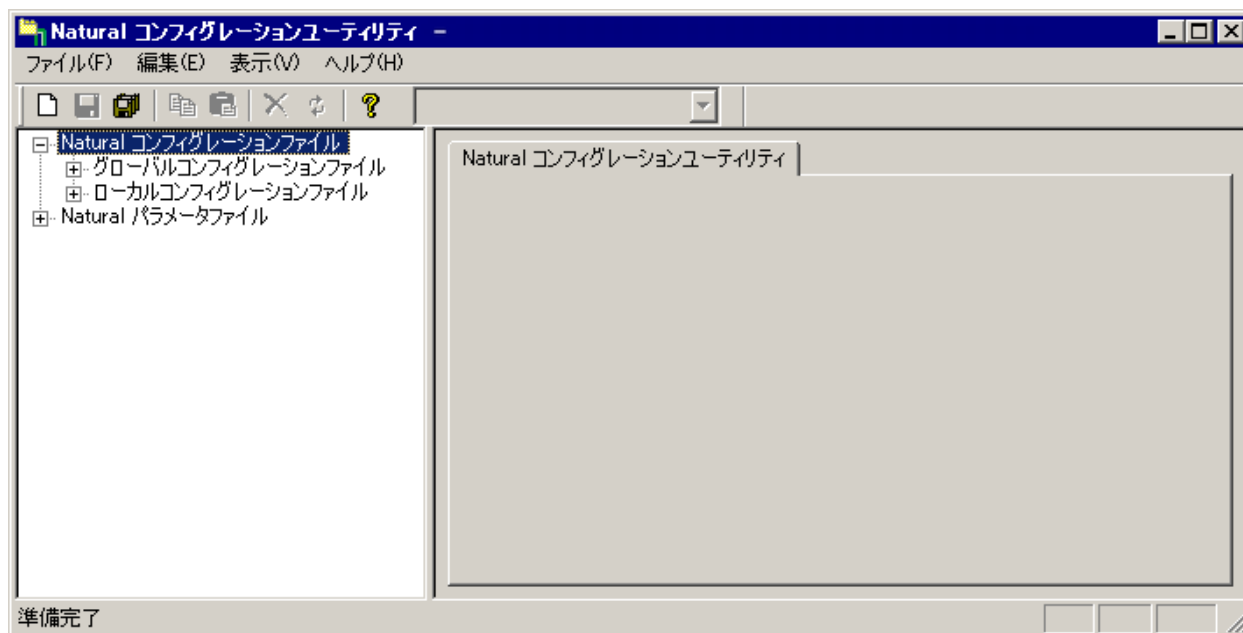
ダイアログボックスが開き、現在のバージョン番号などの情報が表示されます。

# 5      コンフィグレーションファイルのパラメータの概要

---

- グローバルコンフィグレーションファイル (Global Configuration File) ..... 24
- ローカルコンフィグレーションファイル (Local Configuration File) ..... 34

このchapterでは、グローバルおよびローカルコンフィグレーションファイルで設定できるパラメータについて説明します。



以下では次のトピックについて説明します。

コンフィグレーションファイルの変更は、管理者のみが行うようにする必要があります。また、その作業はコンフィグレーションユーティリティを使用してのみ行います。

## グローバルコンフィグレーションファイル (Global Configuration File)

---

このパラメータグループには、次のカテゴリがあります。

- データベース管理システムの割り当て ( [データベースマネージメントシステム 割り当て (Database Management System Assignments) ] )
- ディクショナリサーバー割り当て ( [辞書サーバー割り当て (Dictionary Server Assignments) ] )
- プリンタプロファイル (Printer Profiles)

■ システムファイル (System Files)

データベース管理システムの割り当て ( [データベースマネージメントシステム割り当て (Database Management System Assignments) ] )

データベース管理システムの割り当てに適用されるパラメータは、以下のページにまとめられています。

- DBMS 割り当て (DBMS Assignments)
- DBMS トレース (DBMS Tracing)
- SQL 割り当て (SQL Assignments)
- XML 割り当て (XML Assignments)


**DBMS 割り当て (DBMS Assignments)**

データベース ID の定義に使用されるテーブルが表示されます。DDM では、このデータベース ID によってデータベースがマップされます。

DBMS 割り当てがすでに定義されている場合、その割り当て内容がテーブルに表示されます。

**DBID**

データベース ID です。

 **Note:** データベース ID が "0" に設定されている DDM を使用している場合、同様にデータベース ID が "0" に設定され、対応するデータベースタイプも指定された別のエントリが存在する必要があります。このエントリは、対応するデータベースステートメントを生成プログラム (GP) に組み込むために、コンパイル時に使用されます。

**タイプ (Type)**

Natural によりアクセスされるすべてのデータベースのタイプがグローバルコンフィグレーションファイルで定義されている必要があるため、各データベース ID に対して次の値のいずれかを指定します。

値	説明
ADA	Adabas データベースサーバー (これがデフォルトです)。
ADA2	Adabas データベースサーバー。これは ADA と同じデータベースタイプです。唯一異なる点が、英数字オブジェクト (Adabas LA オプション) とラージオブジェクトデータベースフィールド (LOB) です。これらはビュー内でダイナミックに定義されますが、ADA2 では 64KB を超えるビューサイズが許容されます。このデータベースタイプは、オープンシステムの Adabas バージョン 6 以降、およびメインフレームの Adabas バージョン 8 以降で使用できます。
SQL	Entire Access を使用してアクセスできる任意の SQL データベース (Entire Access とは、さまざまな SQL データベースシステムに対応した Software AG の共通インターフェイスです)。
XML	Tamino データベースサーバー。

**!** **Important:** グローバルコンフィグレーションファイルで、システムファイルにすでに割り当てられている DBID のデータベースタイプを定義しないでください（「[システムファイル](#)」を参照）。これを定義すると Natural の起動時にエラーメッセージが発行され、システムファイルの設定に不整合があり、データベース割り当ての読み取り時のエラーが発生することが通知されます。

コンパイル時、データベースタイプの決定にプロファイルパラメータ UDB は使用されません。データベースタイプの決定に UDB が使用されるのはランタイム時に限られます。データベースタイプは、コンパイル時とランタイム時で同じである必要があります。

例外：互換性を保持するため、コンパイル時にはデータベースタイプ ADA を使用し、ランタイム時には ADA2 を使用することは可能です。

### パラメータ (Parameter)

次のタイプのデータベースにのみ適用されます。

タイプ	説明
SQL	データベースタイプが SQL である場合、操作するデータベースシステムに接続するために使用する文字列 (DBMS パラメータ) を指定します。SQL タイプのデータベースシステムにアクセスする方法の詳細については、『データベース管理システムインターフェイス』ドキュメントの「 <i>Natural and Entire Access</i> 」を参照してください。
XML	データベースシステムが XML (Tamino) である場合、このデータベースでアクセスするコレクションの名前が含まれた Tamino データベースの URL を入力します。Tamino データベースにアクセスする方法の詳細については、『データベース管理システムインターフェイス』ドキュメントの「 <i>Natural for Tamino</i> 」を参照してください。

### DBMS トレース (DBMS Tracing)

[**Adabas トレース (Adabas Trace)**]、[**SQL トレース (SQL Trace)**]、および [**XML トレース (XML Trace)**] の設定は、エラー診断を目的としています。これらに値を入力する必要があるのは、Software AG サポートからそのように要請された場合に限られます。このような場合には、Software AG サポートが有効な値を提供します。

### SQL 割り当て (SQL Assignments)

次のテーブルが用意されています。

#### ■ SQL 日付/時刻変換

このテーブルを使用して、Entire Access の変換マスクを指定します。

Natural では 1 種類の特定の時刻フォーマットしか指定できないため、SQL データベースにアクセスした場合にこのフォーマットがどのように解釈される必要があるかを決定しておく必要があります。候補としてはいくつか考えられますが、ここで指定できるのは SQL タイプの DBID につき 1 つに限られます。

## DBID

編集できません。**DBMS 割り当てテーブル**（上の説明を参照）に定義されている SQL タイプデータベースのエントリが自動的に指定されます。

## マスク (Mask)

この値によって、Entire Access のコンフィグレーションが指定されます。また、DATE、TIME、および DATETIME の SQL 情報（Natural データフォーマット A の各フィールドに挿入）を取得するために使用するフォーマットが指定されます。マスクは、DATE、TIME、または DATETIME 文字列表現に対する RDBMS 固有のコンフィグレーションと一致させる必要があります。

## 日付 (Date)

このマスク（通常は Mask 値のサブストリング）は、SQL DATE 列の更新時または検索時に、Natural データフォーマット D の各フィールドが変換される文字列表現を指定します。

## 時刻 (Time)

このマスク（通常は Mask 値のサブストリング）は、SQL TIME 列または DATETIME 列の更新時または検索時に、Natural データフォーマット T の各フィールドが変換される文字列表現を指定します。

## 注釈 (Remark)

ここには注釈として、例えばデータベースサイトでの SQL DATE および TIME 文字列表現の構成方法に関する説明を入力できます。

日付と時刻に共通のデータタイプがサポートされているデータベースシステムでは、DATETIME 文字列の関連しない部分をスキップするために、ハッシュ文字 (#) をマスクで使用できます。例えば、日付と時刻の値に共通の DATETIME データタイプがサポートされている Microsoft SQL Server では、マスクの設定を以下のようにするのが妥当と考えられます。

```
Mask = YYYYMMDD HH:II:SS
Date = YYYYMMDD
Time = #####HH:II:SS
```

## ■ SQL 認証

このテーブルを使用して、SQL データベースに自動的にログインするためのユーザー ID とパスワードを指定します。

## DBID

編集できません。**DBMS 割り当てテーブル**（上の説明を参照）に定義されている SQL タイプデータベースのエントリが自動的に指定されます。

## 自動ログイン (Auto Login)

この列のチェックボックスが選択されている場合は、このテーブル行の値を使用して非対話型のログインがデータベースに対して実行されます。さらに、環境変数 SQL\_DATABASE\_LOGIN、SQL\_DATABASE\_USER、SQL\_DATABASE\_PASSWORD、SQL\_OS\_USER、および SQL\_OS\_PASSWORD の評価が省略されます。

### タイプ (Type)

この DBID に対して実行される認証の種類を定義するには、次の値のいずれかを指定します。

値	説明
DB	データベース認証。
OS	オペレーティングシステム認証。
DB_OS	データベース認証とオペレーティングシステム認証の両方。

実行される認証は、データベースシステムでどの認証を使用できるかによって決まります。また、Entire Access では、オペレーティングシステム認証に関する制限があります。詳細については、Entire Access のドキュメントを参照してください。

#### DB ユーザー (DB User)

データベース認証用のユーザー ID。

#### DB パスワード (DB Password)

データベース認証用のパスワード。

#### OS ユーザー (OS User)

オペレーティングシステム認証用のユーザー ID。

#### OS パスワード (OS Password)

オペレーティングシステム認証用のパスワード。

### XML 割り当て (XML Assignments)

Tamino データベースの自動ログイン用ユーザー ID とパスワードを指定するために使用するテーブルが表示されます。

#### DBID

編集できません。DBMS 割り当てテーブル (上の説明を参照) で定義されている XML タイプのデータベースのエントリが自動的に指定されます。

#### 自動ログイン (Auto Login)

この列のチェックボックスが選択されている場合は、このテーブル行の値を使用して非対話型のログインがデータベースに対して実行されます。さらに、環境変数 XML\_DB\_USER、XML\_DB\_PASSWORD、XML\_HTTP\_USER、および XML\_HTTP\_PASSWORD の評価が省略されます。

#### DB ユーザー (DB User)

Tamino データベース認証用のユーザー ID。

#### DB パスワード (DB Password)

Tamino データベース認証用のパスワード。

#### HTTP ユーザー (HTTP User)

Web サーバー認証用のユーザー ID。



### HTTP パスワード (HTTP Password)

Web サーバー認証用のパスワード。

### ディクショナリサーバー割り当て ([辞書サーバー割り当て (Dictionary Server Assignments) ] )

ディクショナリサーバーでメインフレームまたは UNIX ホストの Predict にアクセス可能な場合、Predict で管理されるフリールールと自動ルールにアクセスできます。

いわゆるディクショナリサーバー (フリールールサーバーおよび自動ルールサーバー) を、共通する 1 つの論理サーバー名に割り当てることができます。複数の論理サーバー名を定義することも可能で、その場合、それぞれの名前はフリールールサーバーと自動ルールサーバーの異なるペアを表します。割り当てるサーバーは異なるノードで見つかる場合があります。

グローバルコンフィグレーションファイルでは、パラメータファイルでの選択対象とするすべてのディクショナリサーバーを定義します。次に、使用する論理サーバー名をパラメータファイルで定義する必要があります。「プロファイルパラメータの概要」の「[リモートディクショナリアクセス](#)」を参照してください。

次の情報を指定できます。

#### 名前 (Name)

論理ディクショナリサーバーの名前を指定します。対応するテキストボックスで、フリールールサーバーと自動ルールサーバーに関する必須情報を指定できます (下記参照)。

このドロップダウンリストボックスから以前に定義した論理ディクショナリサーバーの名前を選択すると、フリールールサーバーと自動ルールサーバーのテキストボックスには、この論理ディクショナリサーバーの定義された情報が表示されます。この割り当ては変更または削除することが可能です。

#### フリールールサーバー

Predictフリールールにリモートアクセスするとき使用するサーバーのサーバー名とノード名を指定します。

#### 自動ルールサーバー

Predict自動ルールにリモートアクセスするとき使用するサーバーのサーバー名とノード名を指定します。

### プリンタプロファイル (Printer Profiles)

プリンタプロファイルは、追加レポートのプリント、ハードコピー、およびバッチ出力生成で使用します。これらのプロファイルは特定の Natural フィールド属性を認識し、プロファイルに定義されたとおりに、適切なコントロールシーケンス (下記参照) を挿入します。

Natural フィールド属性をエスケープシーケンスに変換する機能があるため、正しいプロファイル名を使用すればプリンタをさまざまな方法で制御できます。また、Natural プログラムの簡単な属性を使用して、特定のデバイスのプリント機能を使用することもできます。

ユーザーが定義した各プロファイルは、コンフィグレーションユーティリティを使用して Natural レポート番号にスタティックに割り当てることができます (「[デバイス/レポート割り当て](#)」を参照)。または、Natural プログラムで DEFINE PRINTER ステートメントを使用してダイナミックに割り当てることができます。

プリンタプロファイルに適用されるパラメータは、以下のページに表示されます。

- [プリンタプロファイル](#)
- [TTY プリンタプロファイル](#)
- [GUI プリンタプロファイル](#)

### プリンタプロファイル

次の情報を指定できます。

名前

プリンタプロファイルの名前。

メソッド

この列でボタンを選択して、そのプリンタプロファイルの出力メソッドを切り替えることができます。

メソッド	説明
TTY	出力データ (テキストファイル) は、「そのままの状態」 スプーラに直接送信されます。プリンタコマンドシーケンスを、ダイナミックに (プログラムデータとして指定) またはスタティックに (プリンタプロファイルにより指定) 明示的に指定する必要があります。これで、アプリケーションの側からコマンドシーケンスを完全に制御できるようになります。これは、プリンタドライバを無視する低レベルのプリントメソッドです。このメソッドを使用する場合は、 <a href="#">[TTY プリンタプロファイル]</a> ページで必要なすべての情報を指定する必要があります。
GUI	レポートデータ (ページの説明) はプリンタドライバに渡され、このドライバによってレポートデータが必要なプリンタコントロールシーケンスとともに適切な形式 (PostScript、PCL など) でスプールファイルに変換されます。これは、Windows 環境では一般的な印刷方法です。このメソッドを使用する場合は、 <a href="#">[GUI プリンタプロファイル]</a> ページで必要なすべての情報を指定する必要があります。

## TTY プリンタプロファイル

次の情報を指定できます。

### プロファイル名 (Profile name)

このドロップダウンリストボックスには、[\[プリンタプロファイル\]](#) ページで定義されている TTY タイプのすべてのプロファイル名が表示されます。必要なプロファイルの名前を選択します。このページで指定するすべての情報は、現在選択されているプロファイルに適用されます。

### 外部文字セット (External character set)

指定は任意です。例えばプリンタの文字セットがシステムの文字セットと異なる場合、または Unicode データを保持するためにデータを UTF-8 フォーマットで出力する場合は、外部文字セットを定義する必要があります。

外部文字セットの名前を指定できます。名前が "UTF-8" である場合、データは UTF-8 フォーマットに変換されます。さもない限り、任意の名前を使用することができますが、ファイル NATCONV.INI の文字変換テーブル定義で使用される名前と一致させる必要があります。例えば、内部文字セットの名前 (NATCONV.INI ファイルの先頭付近で定義される) が "ISO8859\_1" で、プリンタプロファイルの外部文字セットの名前として "FRED" が定義された場合、以下の名前を持つセクションをファイル NATCONV.INI 内で定義する必要があります。これを定義しない場合、文字の変換は実行されません。

```
[ISO8859_1 -> FRED]
```

UTF-8 以外の場合、NATCONV.INI ベースの変換が適用される前に、まずデータがメモリ内のフォーマット (UTF-16) からシステムコードページに変換されます。

NATCONV.INI ファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「NATCONV.INI での異なる文字セットのサポート」を参照してください。

## プリンタコントロールシーケンス

ジョブ、ページ、フィールドのどのレベルでコマンドをトリガするかを指定できます。

列	説明
トリガ (Trigger)	トリガイイベントによって、指定されたプリンタコントロールシーケンスが適用されるレベルを制御できます。スクロール可能なこのテーブルの各行が、次の特定のトリガイイベントに適用されます。
ジョブ (JOB)	コントロールシーケンスを出力ジョブ全体に適用する場合は、このトリガイイベントを使用します。指定されたコントロールシーケンスは、それぞれジョブヘッダーまたはジョブトレーラ、あるいはその両方を表します。
ページ (PAGE)	コントロールシーケンスを物理的な出力ページごとに適用する場合は、このトリガイイベントを使用します。指定されたコン

列	説明	
		ロールシーケンスは、それぞれページヘッダーまたはページトレーラ、あるいはその両方を表します。
	フィールド (FIELD)	コントロールシーケンスを各フィールド（そのAD、CD、またはPM属性とは関係なく）に適用する場合は、このトリガイベントを使用します。
	AD/CD	これらのトリガイベントは、セッションパラメータAD（属性定義）およびCD（カラー定義）の特定の属性を表します。コントロールシーケンスをフィールドレベルのみで適用する場合は、このトリガイベントを使用します。Natural プログラム内の対応する属性があるフィールドで、これらのコントロールシーケンスが実行されます。これらのセッションパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
	PM=I	コントロールシーケンスを各フィールドに適用し、出力方向をページと逆にする場合は、このトリガイベントを使用します。詳細については、セッションパラメータPM（出力モード）および端末コマンド%V（出力モードの制御）を参照してください。
リーディング	リーディングコントロールシーケンスは、トリガイベントの直前に挿入されます（ジョブヘッダーを定義するため、フィールド表現の属性を設定するため、など）。	
トレーリング	トレーリングコントロールシーケンスは、トリガイベントの直後に挿入されます（ジョブトレーラを定義するため、以前に設定した属性を再設定するため、など）。	

各コントロールシーケンスに対して、英数字または 16 進形式で制御文字を指定できます。



**Notes:**

1. 空白文字は必ず 16 進形式で指定する必要があります (^20)。そのまま入力すると、コンフィグレーションファイルでトークンを区切るために使用される空白と混同される可能性があります。
2. エスケープ文字は印刷可能な文字ではないため、必ず 16 進形式で指定する必要があります (^1b)。

**例**

この例では、文字の相対割り付けを設定する PCL コマンドを、英数字フォーマットと 16 進形式の両方で示しています。エスケープ文字 "^1b" は 10 進数値では 27 になるため、必ず 16 進形式で指定する必要があります。

英数字フォーマット：

```
^1b(s1P
```

16 進形式：

```
^1b^28^73^31^50
```

## GUI プリンタプロファイル

次の情報を指定できます。

### プロファイル名

このドロップダウンリストボックスには、[\[プリンタプロファイル\]](#) ページで定義されている GUI タイプのすべてのプロファイル名が表示されます。必要なプロファイルの名前を選択します。このページで指定するすべての情報は、現在選択されているプロファイルに適用されます。

### マージン

ページの余白。印刷可能領域の左上角を基準として、上下左右のページ余白を相対的に指定できます（単位：ポイント）。

### テキスト色

使用される色。次の値のいずれかを選択できます。

値	説明
Leave	色の設定を未指定のままにします（デフォルト設定が使用されます）。
Ignore	色の設定を無視します（つまり、すべてを黒で印刷します）。
Retain	Natural プログラムの色の設定をそのまま保持します（セッションパラメータ CD の指定に従います）。

### 属性フォント

フォントは常に、セッションパラメータ AD の特定のフィールド表現属性と関連付けられます。属性ごとに異なるフォントを定義できます。

次のオプションを使用できます。

オプション	説明
表示フォント	このドロップダウンリストボックスを使用して、 <a href="#">[フォント]</a> ダイアログボックス（ <a href="#">[設定]</a> ボタンを選択すると表示されます。下記参照）に表示されるフォントを決定します。 <a href="#">[System]</a> を選択すると、画面のフォントのみが表示されます。プリンタのいずれかを選択すると、画面のフォントに加えてそのプリンタにインストールされているフォントが表示されます。この場合、利用できるフォントの数は増えますが、プロファイルプリンタ固有の設定になるという欠点もあります。
固定幅フォントのみ	このチェックボックスをオンにすると、 <a href="#">[フォント]</a> ダイアログボックス（ <a href="#">[設定]</a> ボタンを選択すると表示されます。下記参照）には固定幅フォントのみが表示されます。オフにした場合、すべてのフォント（固定幅フォントとプロポーショナルフォント）が <a href="#">[フォント]</a> ダイアログボックスに表示されます。
行間増	追加分の行間隔を指定して、デフォルトの行間隔を縦方向に広げることができます（単位：ポイント）。
AD	各属性に対応した <a href="#">[設定]</a> ボタンを選択すると、 <a href="#">[フォント]</a> ダイアログボックスが表示されます。これは標準的な Windows ダイアログで、フォント、フォントス

オプション	説明
	タイル、およびサイズを指定できます。 [クリア] ボタンが有効になっている場合、対応する属性にフォントが定義されています。このボタンを選択するとフォントの定義を削除できます。

### システムファイル (System Files)

既存の Natural システムファイル割り当てのリストが表示されます。

使用可能なすべてのシステムファイル (つまり、考えられるすべての DBID/FNR の組み合わせ) のパスは、グローバルコンフィグレーションファイルで定義されます。これらは、ディスク上のシステムファイルの物理的な場所を示す有効なパスである必要があります。

次の情報を指定できます。

#### DBID

データベース ID です。

#### FNR

ファイル番号です。

#### エイリアス名 (Alias name)

システムファイルにエイリアス名を指定すると、この名前が Natural スタジオのライブラリワークスペースに表示されます。

#### パス (Path)

システムファイルへのパスです。

定義済みの各システムファイルへのパスは、後でパラメータファイルで選択できます。「プロファイルパラメータの概要」の「[システムファイル](#)」を参照してください。

## ローカルコンフィグレーションファイル (Local Configuration File)

---

このパラメータグループには、次のカテゴリがあります。

- [バッファプール割り当て \(Buffer Pool Assignments\)](#)

■ インストール指定 (Installation Assignments)

バッファプール割り当て (Buffer Pool Assignments)

バッファプールの定義に使用するテーブルが表示されます。『オペレーション』ドキュメントの「*Natural* バッファプール」も参照してください。

次の情報を指定できます。

**BP 名 (BP Name)**

*Natural* バッファプールの名前。名前の最大長は 8 文字です。デフォルトバッファプールの名前は NATBP です。『パラメータリファレンス』の「BPID」も参照してください。



**Caution:** デフォルトのバッファプール NATBP は削除しないでください。削除すると、*Natural* が正常に機能しなくなる可能性があります。

**BP サイズ (BP Size)**

*Natural* ローカルバッファプールのサイズ。この設定は、指定したサイズのグローバル共有メモリセグメントを作成するために、*Natural* バッファプールの起動時に NATBPSRV サーバーによって使用されます。

指定可能な設定は 1~512 MB です。

デフォルトの設定は 1 です。

**リソースサイズ**

バッファプールにロードされるリソースのサイズ制限。このサイズを超えるリソースは、*Natural* からのアクセスを受けると常に、ファイルシステムから直接ロードされます。このオプションの設定により、大きなサイズのリソースが原因でバッファプールに容量不足が発生する事態を防ぐことができます。0 (ゼロ) が指定された場合、サイズに関係なくすべてのリソースがバッファプールにロードされます。

指定可能な設定は 1~バッファプールのサイズ (KB) です。

デフォルトの設定は 0 です。

**最大ユーザー数 (Maximum Users)**

バッファプールへ同時にアクセスすることができる最大ユーザー数。この数値により、起動時に共有メモリ内に保存されるいくつかの内部テーブルのサイズが決定されます。

指定可能な設定は 1~5000 です。

デフォルトの設定は 20 です。

**ディレクトリエントリ (Directory Entries)**

ディレクトリエントリの数。この値は、バッファプール開始時に NATBPSRV サーバーによって使用されます。最大値に達した場合、この値は自動的に増加します。

指定可能な設定は 10~9999 です。

デフォルトの設定は 10 です。

### 同期

この列のボタンを選択すると、バッファプールの同期設定を切り替えることができます。

設定	説明
はい	同期を有効にします。
いいえ	同期を無効にします（デフォルト）。

詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「複数のバッファプール」を参照してください。

### リードオンリー (Read Only)

このチェックボックスが選択されている場合、これは読み取りアクセスのみが許可された特殊なバッファプールです。この場合、定義された最大ユーザー数の値は無視されます。

詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「読み取り専用バッファプール」を参照してください。

### 代替 BP 名 (Alternate BP Name)

読み取り専用バッファプールの場合、代替バッファプールの名前を定義できます。代替バッファプールも読み取り専用バッファプールにする必要があります。

このテキストボックスがアクティブになるのは、対応するバッファプールが読み取り専用バッファプールとして定義されている場合に限られます。また、最低2つのバッファプールを読み取り専用バッファプールとして定義する必要があります。そうでないと、ドロップダウンリストボックスから代替バッファプールを選択することはできません。

詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「代替バッファプール」を参照してください。

### インストール指定 (Installation Assignments)

次の項目を指定できます。

パラメータモジュールへのパス

Natural パラメータファイルの場所。

ユーザープロファイルへのパス

Natural ユーザープロファイルの場所。

グローバルコンフィグレーションファイル

グローバルコンフィグレーションファイルの名前と場所（デフォルト名はNATCONF.CFG）

**Natural** エラーファイルディレクトリ

Natural エラーファイルの場所。



### Natural I/O 変換テーブル

内部文字セット ISO-8859-1 を用いた文字変換テーブルを含むファイルの名前。デフォルトでは、このファイルの名前は NATCONV.INI です。詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「NATCONV.INI での異なる文字セットのサポート」を参照してください。

### Natural TMP ディレクトリ

Natural の一時的な出力場所。

特定のパス（例えば、`c:\Natural\temp`）を定義する代わりに、環境変数（例えば、`%usertemp%=mytempdir`）を定義してパスに埋め込むことができます（例えば、`c:\Natural\%usertemp%`）。ランタイム時に、現在有効な環境変数でパスが使用されます（例えば、`c:\Natural\mytempdir\`）。



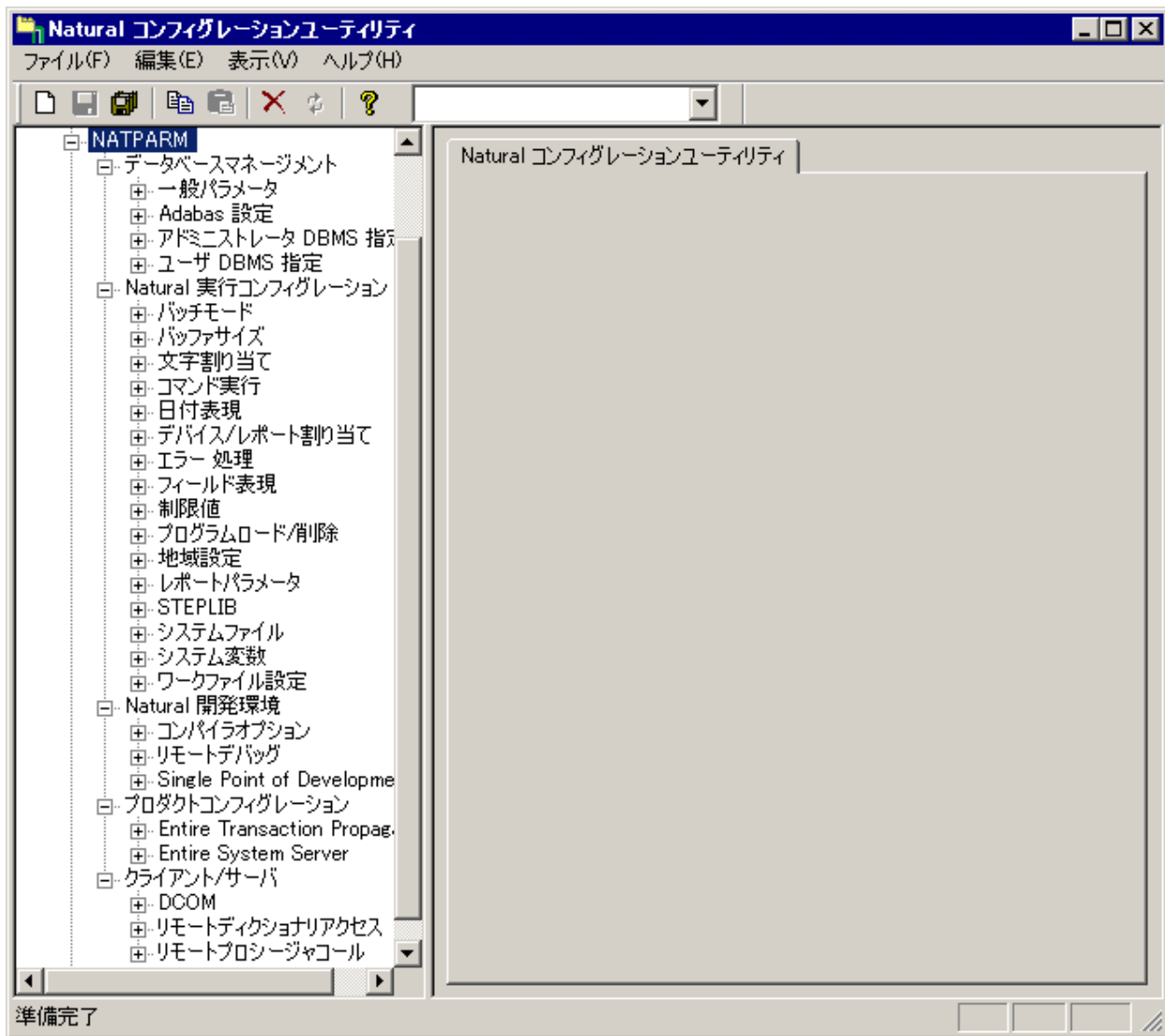
## 6 プロファイルパラメータの概要

---

■ データベースマネジメント (Database Management) .....	41
■ Natural 実行コンフィグレーション (Natural Execution Configuration) .....	43
■ Natural 開発環境 (Natural Development Environment) .....	60
■ プロダクトコンフィグレーション (Product Configuration) .....	62
■ クライアント／サーバー (Client/Server) .....	63

## プロファイルパラメータの概要

このchapterでは、NATPARM パラメータファイル（または代替パラメータファイル）で設定可能なプロファイルパラメータについて説明します。



パラメータファイルのノードを展開すると、次のパラメータグループのノードが表示されます。

使用可能なすべてのプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照するか、。

## データベースマネージメント (Database Management)

このパラメータグループには、次のカテゴリがあります。

- 一般パラメータ (General Parameters)
- Adabas 設定 (Adabas Specific)
- アドミニストレータ DBMS 指定 (Administrator DBMS Assignment)
- ユーザー DBMS 指定 (User DBMS Assignment)

グローバルコンフィグレーションファイルの「データベース管理システムの割り当て」も参照してください。

### 一般パラメータ (General Parameters)

次のパラメータは、サポートされているデータベース管理システムに適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
データベース更新 (Database updating)	DBUPD
END/BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行 (Execution of END/BACKOUT TRANSACTION)	ET
プログラム終了時の ET (ET at end of program)	ETEOP

### Adabas 設定 (Adabas Specific)

Natural と Adabas を併用する場合、次のパラメータをチェックし、必要に応じて特定の要件に合うようにデフォルト値を調整します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Adabas ユーザー ID (Adabas user identification)	ETID
データベース応答待ち時間	LDB
マルチフェッチ (Multifetch)	MFSET
FIND ステートメントで ISN が見つからない場合はプログラム終了 (Terminate when no ISN found with FIND statement)	RCFIND
GET ステートメントで ISN が見つからない場合はプログラム終了 (Terminate when no ISN found with GET statement)	RCGET

## プロファイルパラメータの概要

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
レコードホールド処理 (Record hold processing)	WH
Adabas オープン/クローズ処理 (Adabas OPEN/CLOSE processing)	OPRB

### アドミニストレータ DBMS 指定 (Administrator DBMS Assignment)

次のパラメータは、管理者特有のデータベース管理システム設定を割り当てるために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
アドミニストレータ論理ファイル (Administrator logical files)	LFILF
XA データベースリスト (XA database list)	XADB
ファイル番号の変換 (Translation of file number)	TF

### ユーザー DBMS 指定 (User DBMS Assignment)

次のパラメータは、ユーザー特有のデータベース管理システム設定を割り当てるために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
ユーザーデータベース ID (User database ID)	UDB
トランザクションデータのデータベース (Database for transaction data)	ETDB
ユーザー論理ファイル (User logical files)	LFILF

## Natural 実行コンフィグレーション (Natural Execution Configuration)

このパラメータグループには、次のカテゴリがあります。

- バッチモード (Batch Mode)
- バッファサイズ (Buffer Sizes)
- 文字割り当て (Character Assignments)
- コマンド実行 (Command Execution)
- 日付表現 (Date Representation)
- デバイス／レポート割り当て (Device/Report Assignments)
- エラー処理 (Error Handling)
- フィールド表現 (Field Appearance)
- 制限値 (Limits)
- プログラムロード／削除 (Program Loading and Deletion)
- 地域設定 (Regional Settings)
- レポートパラメータ (Report Parameters)
- STEPLIB
- システムファイル (System Files)
- システム変数 (System Variables)
- ワークファイル設定 (Work Files)

### バッチモード (Batch Mode)

Natural のバッチモードの動作を制御するパラメータを、下のページに示します。

- チャンネル (Channels)
- 表現
- フレーム文字 (Frame Characters)

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの *Natural*」も参照してください。

### チャンネル (Channels)

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
入力データファイル名 (Input data file name)	CMOBJIN
入力データコードページ (Input data code page)	CPOBJIN
入力コマンドファイル名 (Input commands file name)	CMSYNIN
入力コマンドコードページ (Input commands code page)	CPSYNIN
出力ファイル名 (Output file name)	CMPRINT
出力コードページ (Output code page)	CPPRINT

## プロファイルパラメータの概要

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Natural ログ (Natural log)	NATLOG
エラー処理の有効化 (Enable error processing)	CC

## 表現

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
出力様式 (Similar output)	BMSIM
入力データの表示 (Display input data)	ECHO
セッション終了メッセージの表示 (Display session-end message)	ENDMSG
トレーリングブランクの表示 (Display trailing blanks)	BMBLANK
制御文字の表示 (Display control characters)	BMCONTROL
処理時間の表示 (Display process time)	BMTIME
ウィンドウタイトルの表示 (Display window title)	BMTITLE
Natural バージョンの表示 (Display Natural version)	BMVERSION

## フレーム文字 (Frame Characters)

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
フレーム文字 (Frame characters)	BMFRAME

## バッファサイズ (Buffer Sizes)

Naturalでは、プログラムとデータを保存するために、いくつかのバッファエリアが使用されます。最大限のバッファ効率を実現するため、このエリアサイズの調整が必要になる場合があります。



オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
ソートプログラム用ストレージ (Storage for sort program)	SORTSIZE
ソースエリアサイズ (Source area size)	SSIZE
ワークエリアサイズ (Work area size)	USIZE
SAG エディタバッファプールサイズ	EDTBPSIZE
SAG エディタ論理ファイル (SAG editor logical files)	EDTLFILES

ローカルコンフィグレーションファイルの「[バッファプール割り当て](#)」も参照してください。

### 文字割り当て (Character Assignments)

次のパラメータを使用して、デフォルトの文字割り当てを変更できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
端末コマンド文字 (Terminal command character)	CF
キー文字のクリア (Clear key character)	CLEAR
小数点文字 (Decimal character)	DC
フィラー文字 (Filler character)	FC
ヘルプ文字 (Help character)	HI
INPUT 割り当て文字 (Input assign character)	IA
INPUT 区切り文字 (Input delimiter character)	ID
1000 単位セパレータ文字 (Thousand separator character)	THSEPCH

デフォルトの文字を別の文字に置き換えるよう定義すると、その文字はデータとして使用できなくなります。

## コマンド実行 (Command Execution)

次のパラメータを使用して、コマンドの実行を制御できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
コマンドモードの有効化 (Enable command mode)	CM
端末コマンド %% および % の有効化 (Enable terminal command %% and %)	ESCAPE
Natural システムコマンドの使用制限 (Disable Natural commands)	NC
ダイナミック再カタログ (Dynamic recataloging)	RECAT

## 日付表現 (Date Representation)

次のパラメータを使用して、日付表現を制御できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
出力の日付フォーマット (Date format in output)	DFOUT
STACK の日付フォーマット (Date format in STACK)	DFSTACK
レポートタイトルの日付フォーマット (Date format in report titles)	DFTITLE
日付フォーマット (Date format)	DTFORM
最大年数 (Maximum year)	MAXYEAR
スライディングウィンドウ (Year sliding window)	YSLW

## デバイス／レポート割り当て (Device/Report Assignments)

このパラメータは、画面やプリンタの設定や、レポート割り当てを変更するために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
デフォルトの出力レポート番号の上書き	MAINPR
デバイス	下記の「 <a href="#">デバイス割り当て</a> 」を参照してください。
レポート	下記の「 <a href="#">レポート割り当て</a> 」を参照してください。

プロファイルパラメータ `CMPRTnn` (バッチモードでの追加レポートに使用) も参照してください。

### デバイス割り当て

設定可能な論理デバイス (VIDEO および論理プリンタ LPT1~LPT31) のスクロールできるリストが、[デバイス] グループに示されます。これらは例えば、`DEFINE PRINTER` ステートメントで使用されます。次の情報は変更できます。

#### メソッド

この列のボタンには、対応する出力デバイスで使用される出力方法が表示されます。ボタンを選択すると出力方法を切り替えることができます。

出力方法	説明
TTY	Natural プログラムによるテキスト出力が原則的に変更されない状態でスプーラに転送される、未加工の出力方法です。どのプリンタコマンドも、Natural プログラムによりデータとして出力されるか、TTY プリンタプロファイルでスタティックに定義されている必要があります。Windows プリンタドライバは使用されません。
GUI	Natural プログラムからの出力が指定されたプリンタに関連する Windows プリンタドライバを通過する、Windows 環境下の出力方法です。TTY と違い、プリンタコマンドはプリンタドライバによって自動的に挿入されるため、プリンタコマンドに関する知識は必要ありません。

### クローズモード (Close mode)

論理プリンタごとに異なるクローズモードを選択できます。ドロップダウンリストボックスで指定できる値は次のとおりです。

クローズモード	説明
AUTO	プリンタは、プログラムの終了時または呼び出されたメソッド実行の終了時に、自動的にクローズします。これはデフォルト設定です。
ユーザー (User)	プリンタのクローズはユーザーが制御します。次のいずれかの条件に一致した場合に、プリンタはクローズします。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ CLOSE PRINTER ステートメントが実行された。</li><li>■ DEFINE PRINTER ステートメントが実行された。</li><li>■ セッションが終了した。</li></ul>

次のプログラム例は、ユーザーの制御によるプリンタのクローズを示したものです。クローズモードは、最初にパラメータファイルで設定する必要があります。

```
DEFINE DATA  
  LOCAL  
  1 #OUT (A8)  
END-DEFINE  
*  
#OUT := *PROGRAM  
*  
* Write to report with close mode "user"  
WRITE (1) 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT  
*  
* Write to report with close mode "auto"  
WRITE (2) 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT  
*  
* Close printer 1  
* Printer 1 is user-controlled  
CLOSE PRINTER (1)  
*  
END
```

### ラインサイズ (Line Size)

LS パラメータの説明を参照してください。

### ページサイズ (Page Size)

PS パラメータの説明を参照してください。

### 最大ページ (Max. Pages)

MP パラメータの説明を参照してください。

設定

この列のボタンを選択すると、出力方法を選択するダイアログボックスを表示できます。

出力方法	説明
TTY	<p>この出力方法の [設定] ボタンを選択すると、以下のオプションを指定できる [TTYセットアップ] ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>物理仕様 これはプリンタ名に対応しています。ドロップダウンリストボックスから既存の物理プリンタ指定を選択する代わりに、ファイル名を入力することもできます（出力をファイルに書き込む場合）。</p> <p><b>注意:</b> サーバープリンタは、UNC 命名規則 (\\server-name\printer-name) によって指定できます。</p> <p>ファイルへ出力 このチェックボックスを使用して、指定されたデバイス（ファイルシステム共有として設定されたプリンタなど）へのアクセスにファイル I/O を使用するかどうかを指定できます。このチェックボックスが選択されていない場合、データはスプーラ API ファンクションコールによって出力されます。</p>
GUI	<p>この出力方法の [設定] ボタンを選択すると、Windows の標準的な [印刷設定] ダイアログボックスが表示され、Windows プリンタと関連する印刷オプション（ページサイズや印刷方向など）を選択できます。</p> <p><b>注意:</b> ランタイム時にクライアントコンピュータごとにデフォルトの Windows プリンタを使用する場合は、このダイアログを使用しないでください。または、前回のセッションでこの論理デバイスに対してすでに特定のプリンタを選択している場合、デフォルトのプリンタを暗黙的に再選択できます。それには、出力方法を TTY に切り換えてからアプリケーションを閉じ、また開いて出力方法を GUI に戻します。デフォルトプリンタに対する出力オプションは、プリンタプロファイルを使用して設定する必要があることに注意してください。</p>



**Note:** [ファイルへ出力] チェックボックスがオンになっている場合、以下の記述は出力方法 TTY に適用されます。ワークファイルと同様に、ファイル名は環境変数を使用して定義できます。入力したファイル名の前に右向きの山カッコ 2 つ (>>) を付けていない場合、通常は指定された位置にある同じ名前の既存ファイルが上書きされます。

### レポート割り当て

[レポート] グループには、スクロール可能なリストが表示されます。このリストで、Natural レポート番号（レポート1～31）を論理デバイス名に割り当てることができます。次の情報は変更できます。

#### デバイス (Device)


レポート番号ごとに異なる出力媒体を選択できます。ドロップダウンリストボックスで指定できる値は以下のとおりです。

値	説明
LPT1～LPT31	レポートデータを対応する物理デバイスに出力します。
SOURCE	レポートデータをソースエリアに出力します。その後で、例えば EDIT コマンドを発行してエディタで出力データを開き、保存することができます。
DUMMY	レポートデータは破棄されます。
INFOLINE	レポートデータは情報行に送信されます。 端末コマンド %X の説明も参照してください。

レポート 0 は常に暗黙的に VIDEO に割り当てられます（つまり、出力が画面に表示されます）。他のレポート番号を VIDEO に割り当てることはできません。

#### プロファイル (Profile)

論理デバイスの名前以外に、グローバルコンフィグレーションファイルの [\[プリンタプロファイル \(Printer Profiles\)\]](#) ノードで定義されているプリンタプロファイルを割り当てることができます。定義済みのすべてのプリンタプロファイルは、ドロップダウンリストボックスから選択することができます。このようなプロファイルを使用しない場合は、エントリを空白にしておきます。

 **Important:** 指定するプリンタプロファイルは、ランタイム時に使用される出力方法と一致している必要があります。例えば、TTY 論理デバイスに対して GUI プリンタプロファイルを使おうとすると、そのプリンタプロファイル指定は無視されます。逆の場合も同じです。

## エラー処理 (Error Handling)

次のパラメータを使用して、Natural 内のエラー処理を制御できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
PA/PF キーのエラー処理 (Error processing for PA/PF keys)	IKEY
フルエラーメッセージの表示 (Display system error messages in full)	MSGSF
REINPUT の自動発行 (Automatic REINPUT)	REINP
サウンド端末アラーム (Sound terminal alarm)	SA
構文エラー時のアラーム機能 (Sound bell on syntax error)	SNAT
ゼロ除算オプション (Zero division)	ZD
メッセージ番号接頭辞 NAT の抑制 (Suppress message number prefix NAT)	NOAPPLERR
ランタイム割り込みを許可 (Allow runtime interrupt)	RTINT

## フィールド表現 (Field Appearance)

次のパラメータは I/O 処理に影響を与えます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
入力時のコントロール変数の修正 (Control variable modified at input)	CVMIN
保護フィールドのフィラー文字 (Filler chars protected)	FCDP
小文字から大文字への変換 (Enable lowercase)	LC
保護フィールドの上書き (Overwriting protected)	OPF
ゼロプリント (Zero printing)	ZP
プリントモード (Print mode)	PM

## 制限値 (Limits)

次のパラメータを使用して、単一のプログラムが内部リソースを過剰に消費するのを防ぐことができます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
ループ制限のエラー ( <b>Error on loop limit</b> )	LE
処理ループの制限 ( <b>Processing loop limit</b> )	LT
最大 DBMS コール数 ( <b>Maximum number of DBMS calls</b> )	MADIO
最大プログラムコール数 ( <b>Maximum number of program calls</b> )	MAXCL
システムタイムのディレイ ( <b>System time delay</b> )	SD

## プログラムロード／削除 (Program Loading and Deletion)

次のパラメータは、プログラムのダイナミックなロードと削除を制御するために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
非 <b>Natural</b> プログラムのダイナミックロード ( <b>Dynamic loading of non-Natural programs</b> )	CDYNAM
ダイナミックパラメータ使用の制御 ( <b>Allow dynamic parameter</b> )	DYNPARM
ユーティリティモードでの <b>GDA</b> のリリース ( <b>Release GDA in utility mode</b> )	FREEGDA
パーシスタントパラメータモジュール	PERSIST
システムファイルへの読み取り専用アクセス ( <b>Read only access to system files</b> )	ROSY
バッファプール内検索順序 ( <b>Buffer pool search first</b> )	BPSFI
エラートランザクションプログラム名 ( <b>Error transaction program name</b> )	ETA
プログラムのコマンドラインパラメータ ( <b>Program command line parameter</b> )	PRGPAR
<b>Natural</b> 終了後に制御を受け取るプログラム ( <b>Program to receive control after Natural termination</b> )	PROGRAM
<b>Natural</b> スタックコマンドの設定 ( <b>Natural stack command line</b> )	STACK



## 地域設定 (Regional Settings)

次のパラメータは、国または地域に特有の Natural の設定を制御するために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
日差設定 (Day differential)	DD
時差設定 (Time differential)	TD
ユーザー言語 (User language)	ULANG
ソースに UTF-8 形式を使用 (Use UTF-8 format for sources)	SUTF8
ソース形式の保持 (Retain source format)	SRETAIN
コードページ変換エラー (Code page conversion error)	CPCVERR
デフォルトコードページ (Default code page)	CP
置換文字 (Substitution character)	SUBCHAR

## レポートパラメータ (Report Parameters)

次のパラメータを使用して、Natural レポートのさまざまな属性を制御できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
ページ換え (Page eject)	EJ
数値編集マスクフリーモード (Numeric edit mask free mode)	EMFM
ラインサイズ (Line Size)	LS
ページサイズ (Page Size)	PS
フィールド間の空白 (Spacing factor)	SF
デフォルト入力端末モード (Default input terminal mode)	IM

## STEPLIB

次のパラメータは、STEPLIB の管理に使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
*STEPLIB	STEPLIB
Steplib 拡張 (Steplib Extension)	追加の Steplib を定義する方法、およびこのテーブルにある列の使用方法の詳細については、下記の「追加の Steplib 割り当て」を参照してください。

### 追加の Steplib 割り当て

現在のライブラリで検出できないオブジェクトを検索するために、最大8つのライブラリを定義できます。このような追加の Steplib はテーブルで定義します。Steplib 番号が最初の列に表示され、次の情報を指定できます。

#### 名前 (Name)

既存のライブラリの名前。

#### DBID

ライブラリが格納されているファイルシステムのデータベース ID。

#### FNR

ライブラリが格納されているファイルシステムのファイル番号。



**Note:** 複数の Steplib の処理には、アプリケーションプログラミングインターフェイス USR3025N (Natural Security がインストールされていない場合) および USR4025N (Natural Security がインストールされている場合) を使用することができます。

### システムファイル (System Files)

次のパラメータは、Natural システムファイルを指定するために使用します。パラメータごとにページが表示され、各システムファイルの DBID、FNR、パス、読み取り専用アクセス、パスワード、暗号を指定できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
FNAT (システムプログラム用の Natural システムファイル)	FNAT
FUSER (ユーザープログラム用の Natural システムファイル)	FUSER
FSEC (Natural Security システムファイル)	FSEC

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
FDIC (Predict システムファイル)	FDIC
FDDM (DDM 用の Natural システムファイル)	FDDM

別のシステムファイルにすでに割り当てられているパスを選択すると、最初の割り当てに関連するすべての内部情報が自動的に新しい割り当てにコピーされます。


各システムファイルの物理的な場所は、グローバルコンフィグレーションファイルで定義されます。グローバルコンフィグレーションファイルの「[システムファイル](#)」を参照してください。

### システム変数 (System Variables)

次のパラメータは、Natural セッションを開始するための Natural システム変数を調整するために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
自動ログオン (Automatic logon)	AUTO
スタートアップライブラリ (Startup library)	INIT-LIB
スタートアッププログラム (Startup program)	STARTUP
ユーザー ID (User ID)	USER

『システム変数』ドキュメントも参照してください。

-  **Note:** セッションの開始時には、Natural バージョンを指定するコマンド行パラメータ NATVERS と、特定の Natural パラメータファイルを指定する PARM を使用することができます。これらのパラメータはダイナミックな指定のみが可能であるため、コンフィグレーションユーティリティで修正や表示を行うことはできません。

## ワークファイル設定 (Work Files)

次のパラメータを使用して、ワークファイル設定を指定できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Entire Connection ローカル NCF プロトコルバージョン	NCFVERS
最大ワークファイル番号 (Max. work file number)	WORK
代替ソートワークファイル名 (Alternate sort work file names)	TMPSORTUNIQ
最初のアクセスでのワークファイルオープン (Work file open on first access)	WFOPFA
ワークファイル (Work files)	ワークファイルを定義する方法、およびこのテーブルにある列の使用法の詳細については、下記の「ワークファイルの割り当て」を参照してください。

バッチモードに適用されるプロファイルパラメータ CMWRKnn も参照してください。

『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイル」も参照してください。

### ワークファイルの割り当て

ワークファイルの割り当てはスクロール可能なリストに表示され、番号1~32のワークファイルが示されます。ワークファイル番号が最初の列に表示されます。ワークファイル番号に対してワークファイル名がすでに定義されている場合、その情報（パスと名前）が [名前 (Name)] 列に表示されます。

次の情報は変更できます。


#### タイプ (Type)

ワークファイル番号ごとに異なるワークファイルタイプを選択できます。ドロップダウンリストボックスで指定できる値は以下のとおりです。

ワークファイルタイプ	説明
Default	上位互換を維持するため、拡張子からファイルタイプを決定します。
SAG	バイナリフォーマット。

ワークファイルタイプ	説明
ASCII	<p>レコードが改行と行送り（CR/LF）で終わるテキストファイル。</p> <p>このドロップダウンリストボックスの横にある参照ボタンを選択すると、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。次の情報を指定するためのダイアログボックスが表示されます。</p> <p><b>コードページ（Code page）</b> ワークファイルの記述に使用されるコードページを指定できます（ICUコードページ名：IANA 名を推奨）。ここでコードページが定義されていない場合は、CP で定義されたデフォルトコードページが使用されます。</p>
ASCII compressed	<p>末尾の空白がすべて削除される ASCII フォーマット。</p> <p>このドロップダウンリストボックスの横にある参照ボタンを選択すると、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。次の情報を指定するためのダイアログボックスが表示されます。</p> <p><b>コードページ（Code page）</b> ワークファイルの記述に使用されるコードページを指定できます（ICUコードページ名：IANA 名を推奨）。ここでコードページが定義されていない場合は、CP で定義されたデフォルトコードページが使用されます。</p>
Entire Connection	<p>このワークファイルタイプを選択すると、ローカルディスク上で直接、Entire Connection フォーマットのワークファイルに対して読み取りと書き込みを実行できます（例えば、ステートメント READ WORK FILE と WRITE WORK FILE を使用します）。</p> <p><b>注意:</b> PC への転送はできません。Entire Connection 端末はこの処理では使用されません。</p>
Unformatted	<p>フォーマットがまったく行われていないファイル。フォーマット情報が書き込まれていません（フィールドまたはレコードのいずれにも）。</p> <p>このドロップダウンリストボックスの横にある参照ボタンを選択すると、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。次の情報を指定するためのダイアログボックスが表示されます。</p> <p><b>コードページ（Code page）</b> ワークファイルの記述に使用されるコードページを指定できます（ICUコードページ名：IANA 名を推奨）。ここでコードページが定義されていない場合は、CP で定義されたデフォルトコードページが使用されます。</p>
Portable	<p>正確にダイナミック変数を扱うことができ、トランスポート（例：リトルエンディアンマシンとビッグエンディアンマシン間）にも対応できるファイル。</p>
CSV	<p>コンマ区切りの値。各レコードは、ファイル内の1つの行に書き込まれます。デフォルトでは、ヘッダーは書き込まれません。データフィールドを区切るために使用されるデフォルト文字はセミコロン (;) です。</p> <p>このドロップダウンリストボックスの横にある参照ボタンを選択すると、このワークファイルタイプのプロパティを変更できます。次の情報を指定するためのダイアログボックスが表示されます。</p>

ワークファイルタイプ	説明
	<p><b>ヘッダー (Header)</b>                      "ON" に設定すると、Natural フィールド名の付いたヘッダーがファイルに書き込まれます。</p> <p><b>セパレータ文字 (Separator character)</b>                      異なるセパレータ文字を選択できます。ドロップダウンリストボックスに表示されないセパレータ文字が必要な場合は、ドロップダウンリストボックスのテキストボックスにその文字を入力できます。</p> <p><b>コードページ (Code page)</b>                      ワークファイルの記述に使用されるコードページを指定できます (ICU コードページ名: IANA 名を推奨)。ここでコードページが定義されていない場合は、CP で定義されたデフォルトコードページが使用されます。</p>

 **Note:** 特定のワークファイルタイプの場合にのみ、このドロップダウンリストボックスの横にブラウザボタンが表示されます。上の表の情報を参照してください。

各ワークファイルタイプに対応するワークファイルフォーマットについては、『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイルフォーマット」を参照してください。

#### クローズモード (Close mode)

ワークファイルごとに異なるクローズモードを選択できます。ドロップダウンリストボックスで指定できる値は次のとおりです。

クローズモード	説明
<b>AUTO</b>	<p>これはデフォルト設定です。プログラムが終了したとき、またはメソッドのコール階層で最初に呼び出されたメソッドが実行を終了し、なおかつこの最初に呼び出されたメソッドが COM を通じて呼び出されていた場合、ワークファイルは自動的にクローズします。</p> <p>最初に呼び出されたメソッドがローカルで呼び出されていた場合 (つまり、COM を通じてではない場合)、ワークファイルはクローズしません。</p> <p>例: メソッド A (COM を通じて呼び出されたメソッド) がメソッド B を呼び出し、次にメソッド B がメソッド C を呼び出したとします。メソッド A の実行が終了すると、すべてのワークファイルがクローズします。</p>
<b>ユーザー (User)</b>	<p>ワークファイルのクローズはユーザーが制御します。次のいずれかの条件に一致した場合に、ワークファイルはクローズします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ CLOSE WORK FILE ステートメントが実行された。</li> <li>■ DEFINE WORK FILE ステートメントが実行された。</li> <li>■ セッションが終了した。</li> </ul>

次のプログラム例は、ユーザーの制御によるワークファイルのクローズを示したものです。クローズモードは、最初にパラメータファイルで設定する必要があります。

```

DEFINE DATA
  LOCAL
  1 #OUT (A8)
END-DEFINE
*
#OUT := *PROGRAM
*
* Write to work file with close mode "user"
WRITE WORK 1 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT
*
* Write to work file with close mode "auto"
WRITE WORK 2 'OUTPUT PROGRAM: ' #OUT
*
* Close work file 1
* Work file 1 is user-controlled
CLOSE WORK FILE 1
*
END
    
```

### 属性 (Attributes)

ワークファイルごとに異なる属性を定義できます。次の各カテゴリで、1つの属性を指定できます。

カテゴリ	指定可能な属性	デフォルトの属性	説明
追加モード ( <b>Append mode</b> )	NOAPPEND または APPEND	NOAPPEND	新しいデータをワークファイル内の現在のデータに上書きするか、それとも新しいデータを現在のデータの末尾に追加するかを決定します。
閉じた後でワークファイルを保持/削除 ( <b>Keep/delete work file after close</b> )	KEEP または DELETE	KEEP	ワークファイルをクローズした後に、そのワークファイルを保持するか削除するかを決定します。
バイトオーダーマーク ( <b>BOM</b> ) の書き込み ( <b>Write byte order mark (BOM)</b> )	BOM または NOBOM	NOBOM	ワークファイルのデータの前にバイトオーダーマークを書き込むかどうかを決定します。  コードページデータを書き込むワークファイルタイプ (ASCII、ASCII compressed、Unformatted、CSV) でのみ使用できます。これらのワークファイルタイプで、ワークファイルに対してコードページ UTF-8 が定義されている場合、設定可能な属性は BOM のみとなります ( [タイプ (Type)] 列の説明を参照) 。

カテゴリ	指定可能な属性	デフォルトの属性	説明
			別のタイプのワークファイルが書き込まれた場合、または UTF-8 以外のコードページが定義されている場合は、ランタイム時に属性 BOM の指定は無視されます。  『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「Windows、UNIX、および OpenVMS プラットフォームでのワークファイルおよび出力ファイル」も参照してください。

このテキストボックスの横にあるブラウザボタンを選択すると、ダイアログボックスで属性を設定できます。また、下記で説明するように、テーブルで属性を設定することもできます。

各属性に一意の略語を入力できます。使用できるデリミタ文字は、ブランク、コンマ (,)、セミコロン (;) のいずれかです。例："a, d" (これは APPEND および DELETE を表します)

各カテゴリに指定できる属性は1つのみです。属性は任意の順序で指定できます。テーブルに属性が指定されていない場合、デフォルト値が使用されます。ダイアログボックスを開いて、現在の値を確認することもできます。

#### 名前 (Name)

ワークファイルの場所 (パスと名前) を指定します。

このテキストボックスの横にあるブラウザボタンをクリックして、ダイアログボックスからワークファイルを選択することもできます。

『オペレーション』ドキュメントの「環境変数を使用したワークファイル名の定義」も参照してください。

## Natural 開発環境 (Natural Development Environment)

このパラメータグループには、次のカテゴリがあります。

- コンパイラオプション (Compiler Options)
- リモートデバッグ (Remote Debugging)



■ Single Point of Development

コンパイラオプション (Compiler Options)

次のパラメータを使用して、Natural コンパイラのオプションを設定できます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
データベースショートネームの解釈 (Interpretation of database short names)	DBSHORT
ダンプ生成 (Dump generation)	DU
フォーマット/長さの仕様 (Length/format specification)	FS
キーワードチェック (Keyword checking)	KCHECK
ストラクチャードモード (Structured mode)	SM
シンボルテーブルの生成 (Generate symbol tables)	SYMGEN
構文エラー制御 (Syntax error control)	SYNERR
ダイナミック 1000 単位セパレータ (Dynamic thousand separator)	THSEP
引用符の変換 (Translate quotation marks)	TQMARK
MOVE EDITED と互換性のあるマスク (MASK compatible with MOVE EDITED)	MASKCME
CALLNAT ステートメントのパラメータチェック (Parameter checking for CALLNAT statement)	PCHECK
P フォーマットの内部符号表現 (Internal sign representation of format P)	PSIGNF
エンディアンモード (Endian mode)	ENDIAN
グローバルフォーマット ID の生成 (Generation of global format identifiers)	GFID
クロスリファレンス機能 (Active cross reference)	XREF

### リモートデバッグ (Remote Debugging)

次のパラメータは、リモートデバッグを可能にするために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
リモートデバッグ (Remote Debugging)	RDACTIVE
ノード名 (Node name)	RDNODE
ポート番号 (Port number)	RDPORT

『デバッグ』ドキュメントも参照してください。

### Single Point of Development

次のパラメータはリモート開発環境で使用します。古い Natural デバッグと Natural 開発サーバーの初期バージョン (NDV2.1) を併用する場合にのみ使用するパラメータです。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
デバッグポート番号	SPODDEBUGPORT

## プロダクトコンフィグレーション (Product Configuration)

---

このパラメータグループには、次のカテゴリがあります。

- Entire Transaction Propagator
- Entire System Server
- Web I/O インターフェイス (Web I/O Interface)

## Entire Transaction Propagator

次のパラメータは、Software AG の Entire Transaction Propagator と連携して使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
ETP データベースリスト (ETP database list)	ETPDB
ETP ワークエリアサイズ (Size of ETP work area)	ETPSIZE

## Entire System Server

次のパラメータは、Software AG の Entire System Server インターフェイスと連携して使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
ESX データベース (ESX database)	ESXDB

## Web I/O インターフェイス (Web I/O Interface)

次のパラメータは、Web I/O インターフェイスで Unicode をサポートするために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
Web I/O インターフェイス (Web I/O Interface)	WEBIO

## クライアント／サーバー (Client/Server)

このパラメータグループには、次のカテゴリがあります。

- DCOM
- リモートディクショナリアクセス (Remote Dictionary Access)

- リモートプロシージャコール (Remote Procedure Call)

### DCOM

次のパラメータは、DCOM をサポートするために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
サーバー名	COMSERVERID
アクティベーションポリシー	ACTPOLICY
レジストリの自動更新	AUTOREGISTER

### リモートディクショナリアクセス (Remote Dictionary Access)

次のパラメータは、リモートディクショナリアクセスのために使用します。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
論理辞書サーバー名 (Name of logical dictionary server)	USEDIC 論理ディクショナリサーバーがグローバルコンフィグレーションファイルで定義されている場合、ドロップダウンリストボックスから選択できます。グローバルコンフィグレーションファイルの「 <a href="#">ディクショナリサーバー割り当て</a> 」を参照してください。
リポジトリの使用	USEREP

### リモートプロシージャコール (Remote Procedure Call)

Natural リモートプロシージャコール (RPC) に適用されるパラメータは、以下のページに表示されます。

- RPC (共通) (RPC (General))
- RPC (クライアント) (RPC (Client))
- RPC (サーバー) (RPC (Server))

■ RPC (RDS)

**RPC (共通) (RPC (General))**

このパラメータはクライアントとサーバーの両方に適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
リクエストバッファサイズ	MAXBUFF
ACIバージョン (ACI version)	ACIVERS
コードページ (Code page)	CPRPC

**RPC (クライアント) (RPC (Client))**

このパラメータはクライアントにのみ適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
自動リモート実行 (Automated remote execution)	AUTORPC
代替サーバーでのサービスのリトライ (Retry service on alternative server)	TRYALT
送信バッファ圧縮 (Send-buffer compression)	COMPR
リクエストタイムアウト	TIMEOUT
デフォルトサーバー (Default server)	DFS

**RPC (サーバー) (RPC (Server))**

このパラメータはサーバーにのみ適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
RPCサーバーとしてのセッションの開始 (Start session as RPC server)	SERVER
サーバーリクエストにログオンが必要 (Logon required for server request)	LOGONRQ
サーバー名 (Server name)	SRVNAME

## プロファイルパラメータの概要

---

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
サーバーノード (Server node)	SRVNODE
サーバーユーザー ID (Server user ID)	SRVUSER
サーバー待ち時間	SRVWAIT
転送プロトコル (Transport protocol)	TRANSP
RPC トレース	TRACE

### RPC (RDS)

このパラメータはクライアントにのみ適用されます。

オプション	このプロファイルパラメータの詳細については、『パラメータリファレンス』を参照してください。
リモートディレクトリサーバー	RDS

## 7 代替パラメータファイルによる Natural の呼び出し

---

デフォルトでは、Natural スタジオと Natural ランタイムはパラメータファイル NATPARM で呼び出されます。ユーザーが独自にカスタマイズしたパラメータファイルを作成している場合、このパラメータファイルを使用して Natural スタジオと Natural ランタイムを呼び出すこともできます。

『オペレーション』ドキュメントの「パラメータ値のダイナミックな割り当て」も参照してください。

### ▶手順 7.1. 代替パラメータファイルで Natural スタジオを呼び出すには

- Natural スタジオを開始するときに使用するショートカットのプロパティを表示し、[ターゲット] テキストボックスで、*natural.exe* の後ろに *PARM=parameter-file* を指定します。次に例を示します。

```
"C:\Program Files\Software AG\Natural\version-number\bin\natural.exe" PARM=myparm
```

### ▶手順 7.2. 代替パラメータファイルで Natural ランタイムを呼び出すには

- Natural ランタイムを開始するときに使用するショートカットのプロパティを表示し、[ターゲット] テキストボックスで、*naturalr.exe* の後ろに *PARM=parameter-file* を指定します。次に例を示します。

```
"C:\Program Files\Software AG\Natural\version-number\bin\naturalr.exe" PARM=myparm
```





# 索引

---

## A

Adabas 固有のパラメータ  
    コンフィグレーションユーティリティ, 41

## D

DBMS トレース  
    コンフィグレーションユーティリティ, 26  
DBMS 割り当て  
    コンフィグレーションユーティリティ, 25  
DCOM  
    コンフィグレーションユーティリティ, 64

## E

Entire System Server  
    コンフィグレーションユーティリティ, 63  
Entire Transaction Propagator  
    コンフィグレーションユーティリティ, 63

## N

Natural 開発環境  
    コンフィグレーションユーティリティ, 60  
Natural 実行コンフィグレーション  
    コンフィグレーションユーティリティ, 43  
Natural スタジオ  
    代替パラメータファイルによる開始, 67

## S

Single Point of Development  
    コンフィグレーションユーティリティ, 62  
SQL 割り当て  
    コンフィグレーションユーティリティ, 26  
STEPLIB  
    コンフィグレーションユーティリティ, 54

## W

Web I/O インターフェイス  
    コンフィグレーションユーティリティ, 63

## X

XML 割り当て  
    コンフィグレーションユーティリティ, 28

## あ

アドミニストレータ DBMS 指定  
    コンフィグレーションユーティリティ, 42

## い

一般パラメータ  
    コンフィグレーションユーティリティ, 41  
インストール指定  
    コンフィグレーションユーティリティ, 36  
インポート  
    パラメータファイル, 21

## え

エクスポート  
    パラメータファイル, 21  
エラー処理  
    コンフィグレーションユーティリティ, 51

## か

開始  
    コンフィグレーションユーティリティ, 3

## く

クライアント/サーバー  
    コンフィグレーションユーティリティ, 63  
グローバルコンフィグレーションファイル  
    コンフィグレーションユーティリティのパラメータ, 24  
    最後に保存したバージョンを復元, 18  
    変更, 15  
    保存, 17

## け

検索  
    コンフィグレーションユーティリティでパラメータを検索,  
    16

## こ

コピー  
    パラメータファイル, 18  
コマンド実行  
    コンフィグレーションユーティリティ, 46

コンテキストメニュー  
    コンフィグレーションユーティリティでの呼び出し, 10  
コンパイルオプション  
    コンフィグレーションユーティリティ, 61  
コンフィグレーションファイル  
    コンフィグレーションユーティリティのノード, 9  
    コンフィグレーションユーティリティのパラメータ, 23  
    最後に保存したバージョンを復元, 18  
    変更, 15  
    保存, 17  
コンフィグレーションユーティリティ, 1

## さ

削除  
    パラメータファイル, 20  
作成  
    パラメータファイル, 14

## し

システムファイル  
    コンフィグレーションユーティリティ, 34, 54  
システム変数  
    コンフィグレーションユーティリティ, 55  
終了  
    コンフィグレーションユーティリティ, 4

## す

ステータスバー  
    コンフィグレーションユーティリティでの表示, 11

## せ

制限値  
    コンフィグレーションユーティリティ, 52

## ち

地域設定  
    コンフィグレーションユーティリティ, 53  
チャンネル  
    コンフィグレーションユーティリティ, 43

## つ

ツールバー  
    コンフィグレーションユーティリティ, 9

## て

ディクショナリサーバー割り当て  
    コンフィグレーションユーティリティ, 29  
デバイス割り当て  
    コンフィグレーションユーティリティ, 47  
データベース管理システムの割り当て  
    コンフィグレーションユーティリティ, 25  
データベースマネージメント  
    コンフィグレーションユーティリティ, 41

## な

名前の変更  
    パラメータファイル, 19

## は

貼り付け  
    パラメータファイル, 18  
バッチモード  
    コンフィグレーションユーティリティ, 43  
バッファサイズ  
    コンフィグレーションユーティリティ, 44  
バッファプール割り当て  
    コンフィグレーションユーティリティ, 35  
パラメータ  
    コンフィグレーションユーティリティ, 10  
    コンフィグレーションユーティリティでの検索, 16  
パラメータファイル  
    インポート, 21  
    エクスポート, 21  
    コピーと貼り付けで新規ファイルを作成, 18  
    コンフィグレーションユーティリティのノード, 9  
    コンフィグレーションユーティリティのプロファイルパラメータ, 39  
    最後に保存したバージョンを復元, 18  
    削除, 20  
    作成, 14  
    代替パラメータファイルによる Natural の呼び出し, 67  
    名前の変更, 19  
    変更, 15  
    保存, 17

## ひ

日付表現  
    コンフィグレーションユーティリティ, 46

## ふ

フィールド表現  
    コンフィグレーションユーティリティ, 51  
復元  
    コンフィグレーションファイルまたはパラメータファイル  
    の最後に保存したバージョン, 18  
プリンタプロファイル  
    コンフィグレーションユーティリティ, 30  
プログラムロード/削除  
    コンフィグレーションユーティリティ, 52  
プロダクトコンフィグレーション  
    コンフィグレーションユーティリティ, 62  
プロファイルパラメータ  
    コンフィグレーションユーティリティ, 39

## へ

ヘルプ  
    コンフィグレーションユーティリティで使用, 22  
変更  
    パラメータファイルまたはコンフィグレーションファイル,  
    15

## ほ

### 保存

パラメータファイルまたはコンフィグレーションファイル,  
17

## め

### メニューバー

コンフィグレーションユーティリティ, 8

## も

### 文字割り当て

コンフィグレーションユーティリティ, 45

## ゆ

### ユーザー DBMS 指定

コンフィグレーションユーティリティ, 42

## よ

### 要素

コンフィグレーションユーティリティウィンドウ, 7

### 呼び出し

代替パラメータファイルによる Natural の呼び出し, 67

## り

### リモートディクショナリアクセス

コンフィグレーションユーティリティ, 64

### リモートデバッグ

コンフィグレーションユーティリティ, 62

### リモートプロシージャコール

コンフィグレーションユーティリティ, 64

## れ

### レポートパラメータ

コンフィグレーションユーティリティ, 53

### レポート割り当て

コンフィグレーションユーティリティ, 47

## ろ

### ローカルコンフィグレーションファイル

コンフィグレーションユーティリティのパラメータ, 34

最後に保存したバージョンを復元, 18

変更, 15

保存, 17

## わ

### ワークファイル設定

コンフィグレーションユーティリティ, 56

### ワークファイルの割り当て

コンフィグレーションユーティリティ, 56

